新型コロナウイルス感染症拡大に伴う女性相談の強化 【静岡県】

総事業費 交付金額

1,607 千円

3,214 千円

地域の実情と課題

○本県実施の女性相談総合窓口「あざれあ女性相談」の相談件 数は、令和2年度は前年度比116%、令和3年度も前年度比116% と、過去最多の状況が続いている。

○令和2年において、本県における女性の自殺件数は、対前年度 比増加率は32.4%増(男性は 5.8%減)と、全国平均(15.4%増)を 超過。原因は「家庭」「経済・生活」が上位。

目的•目標

コロナ禍を受けて、困難な状況に置かれている女性に寄り添い、 心の支えとなる入口としての電話相談窓口を増設・居場所づくり支 援をする。

電話相談(アウトプット) 【目標】150件/月

【実績】155件/月(年1,866件)

事業の特徴

〇電話相談

相談者の主旨を汲み取り、明確な専門相談がある場合は適切な 窓口につなげる(従来の女性相談の電話回線を1回線増設)

〇居場所づくり支援事業

相談者の安心できる居場所を開設し、落ち着いた雰囲気の中で、 相談者の心の悩みに寄り添う場所とする。相談者の主旨から、明 確な専門相談がある場合は適切な窓口につなげる。

連携団体

- •NPO法人SafetyFirst静岡(事業委託先)
- ・ひとり親サポートセンター

(母子家庭等就業・自立支援センター、運営:静岡県母子寡婦福祉 連合会)

- ふじのくに女性活躍推進協議会
- ・しずおか男女共同参画推進会議(男女共同参画の自主的な取組 の推進に賛同する民間団体のネットワーク:77団体)
- ・ 市町の女性相談窓口

今後の課題

事業の効果

○電話相談

従前取りこぼしていた相談に対応し、目標の月150件を上回る、 月155件の相談が寄せられた。40~50代の相談者が多く、全体の 65%を占め、「健康」「家族関係」「対人関係」の相談が多かった。

〇居場所づくり支援事業

DV被害者等の社会復帰のための場として、利用者へのフィード バックは大きく「自分を見つめ直す機会となった」等の感想が寄せ られた。

コロナ禍を機に、悩みを抱えて孤立化している女性が顕在化した。 令和4年度も相談件数が過去最高となっており、相談者の主旨に 寄り添う相談事業を継続する必要がある。

事業の概要

コロナウイルス感染症の拡大に伴う女性相談の強化

コロナ禍の影響を受け、困難な状況に置かれている女性等に寄り添い、 心の支えとなる入口としての専門相談窓口を整備する。さらに、相談の 中で見えてきた、電話相談では説明しきれない相談者の心に寄り添うた めに、女性の居場所づくり事業を実施する。

1. 電話相談

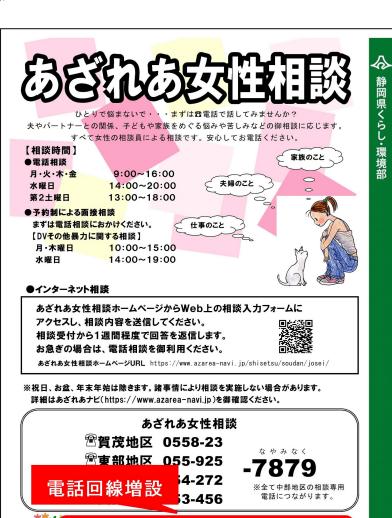
実施日等	令和4年4月1日~令和5年3月24日 平日、第2土曜日(休日・年末年始を除く)
概要	コロナ禍に起因した悩みの相談 (従前の女性相談と同一日時で一回線増設)
相談件数	1,866件
相談内容	健康422件、家族関係334件、人間関係331件等

2. 居場所づくり事業

実施日等	令和4年4月~令和5年3月 月1回、計12回
概要	コロナ禍の影響により困難を抱える女性の 居場所づくり (コラージュ作成等のワークを通じた交流)
参加者	延べ16人



≪居場所づくり支援事業≫



新型コロナウイルス感染拡大に伴い回線を増設しました。こちらの番号もご利用ください。 1054-272-7887

主催: 静岡県 くらし・環境部 県民生活局 男女共同参画課